



あはけ

27

3869  
86



あしけ

へ 8  
3869  
86

[Blank white label]

86  
3869  
86

利  
3942  
20



大正七年青香寄  
室井平藏氏贈

急得ぬ  
如所奏急下  
人  
おす  
つ  
多  
風  
小  
小

様 天持  
 の 守 筆 片 居 女  
 正 心 有 け け け け  
 約 梅 々 々 々 々 々  
 々 々 々 々 々 々 々 々  
 白 々 々 々 々 々 々 々

又 古 庵  
 〇

凡例

一 け 書 二 高 時 流 け け 冠 附  
 と 輯 け 々 々 々 々 々 知  
 々 々 人 々 々 々 々 々 々 々  
 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 一 判 者 々 々 々 々 々 入 乃

凡例

仕立ぶらり〜

ぬる〜

又まおのり〜

とりがら〜

〜に圈とほのう中

ふ圈の五一二字〜

んとほ〜

一生句 人ぬ 葉屋

芝居 何句〜

〜して今時流りの

句作と〜

但け借目〜

あ〜

て〜

〜

一遠鄙の事〜

凡列

二

伯岳トウゴクのトウゴク名と何トウゴクん

一 け 痛イタムにイタムのイタムきイタムるイタム 評者ヒヤクシャ

何ナニきキありアリ次ツギ痛イタム追オヒく

一 翻ヒラカ出デれ

附言

一 生ナマのナマ白シロ

忠孝チュウコウ貞操テイソウその外

そんごうトウゴク人の実情トウゴク

のべトウゴクるトウゴク

一 人トウゴク物モノ

今イマ時トキ流ナガりナガれナガるナガ他トウゴク

そトウゴクれトウゴク人トウゴクおトウゴクとトウゴクいトウゴクふトウゴク

夫トウゴクとトウゴク妻トウゴクのトウゴク中トウゴクにトウゴク

作トウゴクらトウゴクなトウゴクりトウゴクたトウゴク人トウゴクをトウゴク

奇トウゴク妓トウゴクとトウゴク天トウゴク人トウゴクまトウゴクと

愛トウゴクれトウゴク中トウゴクふトウゴクるトウゴク

つら 枝子えだこ婿むよめと云

権妃けんひとうけ後ごのご弁べん

阿嬭あばとつつつとあああと

なり 解いハ人物ぶつのつ村むら

うへん海うみ中なかれく白しろとんん

とまままとつつつとけけけと考考かうふ

一い女にょ驛やく

一い女にょ驛やく 戲し場ば

そももはははとくくくとずずずとんん

痛くとまままとまままと白白しろ化くわ

とまままと一一い組ぐみ組ぐみと若若わか

とまままと一一い馬うま馬うまととと

のまままといいいとまままとんん

是い是こ否ひ否ひとはははと一一い幕まくら

此このまままといいいとまままとんん

一い作さく作さくと一一いと一一い

一化句

道に流るる侍共

ふよりきしきその

と好して所ある

初んまはまき得

かきし編中あま

けしむらむとほす

ふりむらむとほす

一二とわけと清

解

つもしと

わのしね幸飛絶女房

是の女房の侍共

系りまを箱交夜

おひあひを踏み

りたり忠臣蔵



九段目の降るりね

よあひふらぐしりも

やう〜ね 幸茶と

あ、それとよあひふ

あふ〜らるるく

あ〜の〜

ふん〜ふん 山で 善蔵 中丸

あまの 浅州海苔

あ〜きさざ〜

さ〜ら〜ら〜

ふん 山 戸 後 さま ね

ふん 山 号 たり ち ころ へ

あ たり 成 牛 を

あ たり ね 子 と つ い

丁 と 楊 由 乃 的

橋 と 鶴

八

月と部あとの姫

金をうと 丹後の

活たど竹いあそ

らへるまへ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

取方 冠附 芦くけ道二筋

四徳店 梅州 関  
其流 新 龜 巻 締

下大和むー 糸入むが  
漬芽 菴 氏 村 羅 山 暹

○好抄 松 松の琴

底の糸 金屏風 海骨橋

響 能 物の美名

竹の名 橋のくさし知

下

糸名取 其まつりの式

糸又まゐるさへくまふ

よてはまゐる白まづ

まじお好も多しの中

の市まで入るべし

世なり

袴も襦袢も白の糸

とまゐる十分

まを後袴も松る足

別世家しや

袴も白糸に白木綿

袖も白糸

名馬ハ幸乃奇中

今ぐれ糸

父母の糸親へ書と投

やぐら

六子<sup>ち</sup>のわ<sup>ら</sup>ふと

お<sup>の</sup>え<sup>り</sup>

子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>世<sup>よ</sup>一<sup>い</sup>急<sup>い</sup>風<sup>かぜ</sup>

眼<sup>め</sup>さ<sup>る</sup>

井<sup>い</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>さ</sup>む<sup>く</sup>を<sup>は</sup>い

君<sup>きみ</sup>と<sup>と</sup>ふ<sup>り</sup>

空<sup>そら</sup>の<sup>の</sup>煙<sup>けむり</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>盡<sup>つ</sup>き

志<sup>こころ</sup>し<sup>し</sup>

①二<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>三<sup>の</sup>乃<sup>の</sup>ま

先<sup>まづ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>

子<sup>こ</sup>路<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>負<sup>おん</sup>の<sup>の</sup>庭<sup>にわ</sup>へ<sup>へ</sup>様<sup>さま</sup>

実<sup>まこと</sup>り<sup>り</sup>

空<sup>そら</sup>の<sup>の</sup>小<sup>こ</sup>さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>那<sup>な</sup>が<sup>が</sup>あ

仁<sup>に</sup>の<sup>の</sup>報<sup>むかひ</sup>

姑<sup>いそ</sup>皇<sup>み</sup>女<sup>め</sup>の<sup>の</sup>年<sup>とし</sup>は<sup>は</sup>塚<sup>つか</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>き

美<sup>うつく</sup>麗<sup>し</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>り

氣の仔乃子む山五路

禮美西

志吾垢へあふ書ひ際

ちりしわうり

言さ涼きに厚ひ思

春ハ極別

素平も廻す返月橋

日如ハ上

飄ハるる雲行へ

先ハ湛納

中解船と暮の字歌

冥夜ハ

俣ハ依牙と心持桶の喜

大舞臺

吾ハ孔雀とあまれ

陰ハまきり

おねのついでに。六の足

とんあし

言ふ事。事ある事。事ある事。

大名道りどや

服も。服も。服も。

あまひらり

清のうゝる世のほり

南久き町せんぐんの本筋

東へ入るよ

青陽店胡井席一選

○好物。子信結びる女宿

茶屋場の酒

三十石

多く世活の女宿

あぶよ

取テあつま

拵○まへ鈍てう子こ廻まわくり

今年ことしハどいぞ

破やぶきと上うへハああでつつみ

中ちゆう分ぶん結むすし

黒くろいい後ご梳かみへへ去い瓶びん持もち

魚いさな行いりりぬぬり

日ひ入い日ひ休やすむむ業わざへへままるるままるる

そい松まつ申まをづづああ

名な寄よとと骸くわい中ちゆうががままるる

別わかつつぞぞ

南○州しゆうののんんででトトヤヤ新しんととままるるせせ

ああままととれれほほろろけけでで

筆ふで此こゝ柵さく門かど口くちででをを流ながしし

ヲを、別わかややのの

ふふららううのの肩かたああるる女に度ど

とまひし

枝の垢で子グ汚き

玉の汗

どこをやらうひ内蔵り

汗敷一袋

象が流美一みり久

又也

てぬ方しへ就

木此芽のうり

丸ころ風の毒を吸ひ

赤月うり仕んら

筋をに切是り付キ

一袋しきうり

浅い大空のあゝ女房

おん入

船夜しやうくとし



引ぬひて

又それと淡

もげそにあり

一切丸い軒と約

大わき

鏡よよふ

産をれきで

ハヤ目ちし

志月なり仕ん

○首解

笑ふ

櫓桶の斤持が

ふ板さ

伏見の岸糸

さづ

清のさり

ヤリく返居 白隠

一日臺此あが階と

崎く内さのやじ節  
うふぎを谷南入あが

風味店中川程文選

○好物 茶屋の場

化白 降るり

ち中り白ちと

めらめらに

つぢとほ春に立

この中をあぐれま

茶種ふとすの世であ

雲雀とみ

監んざさーとと拵

ち中りとんてん

大思れも下拵うけ

のり紙敷

粟田の鈍子だらり吞

そのり入き

小杉の中に灯が燃り

ふつふつやと

張と三寸で 烟べ

は

毎日ゆきゆき 喰さる

毛付あやめ

糸丸の巨魁舟にやま

アノ姉さん

毛付 鼻の先で止め

思案きいめ

ちんちんの方へおびき

目くらめ

姉さん 川あがき 音る

糸舞下

匠軒迎の天窓わつこ

唄の尻で

多むと袂うけ

六根信洋

濃紙空てれき

くらげ

伝濃町

感和亭岸田鬼丸選

○好物 美人の白

酒 碎つづき 女座

拵 美ゆももぐり

茶のあし下地

○あとり 干月干

じんぎんぶ

掛と釣瓶、新しーい

わりの好で

○笑ふ中り、半しおよせ

雑居る代名お

○芝の丈のなゆり起し

おんのりし

○耳うら香んごのがおと

おぶるとは掃ふへ

○一云若くは子と控

おのりちり

○肉山一足 名馬あを

めりの好で

ゆこやの好よ美らら

つしおん

○町うらのまい船が別い

石より雪ん

三夜どしこめいあい

赤い更ど

柳ふゆかみある女夜

月利ちかいちかるね

小門ちよりちるんくわい

雪せんはちで増取

鼻はなのなのなへ入る

くり一つ物ら

赤あかい方へ立ちまる

日本にっぽん晴はれ

空あまのいふある女夜

まんごうつり

町まちのまじらいとまら

おのり

人ひとより先へあるを付

おどくおくれな

ら系拵く罟う女座

むらき

○魚が起くとあが記

凡世界に

三日海模み足を通す

雪とる松

月あふ内とわりたされ

女夫ふちり

○いハ種の方が多し

ヤレく串ひる

拵と模ふはと女座

風流

○拵くまどあひう

要害堅固

○危ハ内く危成入

ちよと才ふ万

親指おやゆび親指おやゆびでおさく

天満小待町

玉舎舎安田修九選

○好物おもしろ 洋布やうふり 女房

酒さけ 魚いしつり 出でる

まきまわりのと  
まきまわりのと

甲か斐ひが五ごり

おのびひ久くええののし

何なにととぞぞふふや

ふふちちどど入いるる評ひやう乃の内うち

おおままし

天あまののりりののああへへるる

定さだ本ほん判はん

一いっ合がっ骸がい中ちゆうへへちちののりり



梅もさうい

正看<sup>ましろ</sup>の<sup>ましろ</sup>の<sup>ましろ</sup>の<sup>ましろ</sup>の<sup>ましろ</sup>の<sup>ましろ</sup>

きせいの<sup>ましろ</sup>

大坂<sup>おおいさか</sup>の<sup>おおいさか</sup>鹿<sup>か</sup>向<sup>むか</sup>々<sup>々</sup>と<sup>あつ</sup>味<sup>あじ</sup>

ふい<sup>ふい</sup>紫<sup>むらさき</sup>よ<sup>よ</sup>めり

提<sup>てい</sup>灯<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>信<sup>のぶ</sup>の<sup>の</sup>女<sup>め</sup>房<sup>ぼう</sup>

男<sup>おとこ</sup>と<sup>と</sup>女<sup>め</sup>と

眼<sup>まなこ</sup>の<sup>の</sup>浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>浅<sup>あさ</sup>く<sup>く</sup>

増<sup>ま</sup>まれ<sup>ま</sup>甲<sup>か</sup>斐<sup>ひ</sup>

指<sup>さし</sup>の<sup>の</sup>折<sup>を</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>救<sup>すけ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>入<sup>い</sup>り

ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>

綿<sup>わた</sup>の<sup>の</sup>天<sup>あま</sup>宮<sup>みや</sup>の<sup>の</sup>わ<sup>わ</sup>の<sup>の</sup>わ<sup>わ</sup>の<sup>の</sup>わ<sup>わ</sup>

け<sup>け</sup>の<sup>の</sup>け<sup>け</sup>

出<sup>で</sup>の<sup>の</sup>中<sup>なか</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>

絶<sup>た</sup>系<sup>けい</sup>

そ<sup>そ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>

十人どり

昔の疵のりる女房

那が叶ひ

○はる日ト結で踏ぬ庭

いそしと

○だんのり梅の地をさるれ

さかひとませ

○あつしひりゆくと女房

きでのおち

あんどろ ちかひ へるへ連

せまん ひろ 母がく廣ん

ふれ平へ定ぐつと延

のんむりこ

あつしひり 女房

あつしひり

あつしひり 女房

ねよせま

○  
ねよせま

ねふなり

調へ二人のなまが書

風の音

ねこふもにまあり

コリヤどらや

○  
ねふのねのね

あむ

ねふのねのね

他井町松尾町筋東へ

其文堂山口如鶴選

○  
ねふ 初拾 ねふ

ねふ

ねふのねのね

下式

おとし

○はつと後のふが

酒よ又取

中と傍ら肉へ根とほ

茶よこんれ

湯女は洗もゆ

板のや

支例ハ漸一休交

知んてまア

うんさう赤ん眼とおそ

○ヲ、まの雲

眼ハ天空うろ襦へ下り

まんしと

雲少も善れある女

んれあ

唐やむりしがさ

○オ、ハツのー

豆引あしひきやあこ箨あこのあこ枯あこぶあこ

あひししと

ふりしあこちあこちあこちあこちあこちあこ

あひしと

はらのりあこ梅あこのあこふあこもあこもあこ

あひしと

海あこのあこちあこちあこちあこちあこちあこ

○オ、ハツのー

下あこ接あこ表あことあこよあことあこ

あひしと

○月あこ傘あこのあこ柄あこけあこをあこ通あこす

あひしと

机あこへあこのあこ度あこりあこやあこあり

あひしと

そあこのあこ命あこをあこびあこちあこうあこああこへあこ

○コ、三平夜

尻しつううよよるる上上りりに

用もちんんききびびーー

化け糖とうのの厚あついい。○一一文文まま

ののどどろろあありり

浮うままへへみみつつつつ竹たけももああ

ここりりりり

卵たまごののトトどどけけ。○ふふんんううねね

ちちよよちちあありり

茶ちや持もち白しろのの方かたへへみみをを

ははららううへへ

赤あか銅どうのの丸まるをを振あつままるる

○チ、ああららあありり

志し川がわししははらら。○初はつ給たま

ヤヤレレレレ

喉のどのの這はりりにに半はんががええりり

入ねゴシ

了へ女座のひりり云

りい所中格すどあ入

獨秀并吉田菊人選

○好おゆい為

女座 子位

降るり

よと半た

○仕合扱えへ通

レソが歌

一足笑一報

ねとま

○蒼と赤中へ

る夫がた

小に引さげを

やゝふらふら

おしん ちんぽうき

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう

おしん ちんぽう



雪らしりし

積丸をまけしま 獲と

くらめくあけ

おそふ耳みみ 女宿おんなしゆく

けんくかんご

枕まくら へおめくおめく

今いま ころに

おつめくおつめく 指ゆび 爪つめ

思おもひしよ

のもしんのもしん 古ふる 換か ねね

挿さ ねね

眼め へへ 新あたら しし 神かみ 通とほ じじ

お悦およろこ ぶぶ

切き 筋すぢ のの 糸いと をを つつ づづ

寔まこと がが 向むか へへ 向むか へへ

風かぜ 凰ほう のの 位ゐ 系けい 系けい 系けい

らりまゝし

○あさちうりに脊とくへ

吉野の如月

うゝまゝと然もむらむらび

ホソ川いよびふ

あまゝと新へ綿一が路

よの希で

膚ふがうばふまね女座

おてり

正徳のよで

天橋十丁目

いづ門山海ふへ

千歳居塚本湖玉選

○好物 人とあこゝく

降るりち申りの方

髪結かみむす

茶屋の場ちやうやのば

ニワカ

志白しやく

まごて陽気ようきの場ば

あつあつまま白しろ

任まかせまれて

○ままとと子こ守まもりりへへ報しらせせてておおらら

申まをすす

ふふりりのの一いち編へんへへおおらら

不ふ平へいののままままぬぬ

新あらへへ指さし巻まき出でてておおらら

新あらへへ庫くらへへ

○ああままととつつひひ賢けんととつつひひ

どどろろととああままどどろろ

○おおららままのの上うへにに

まままままま

ああままののああままののああまま

さしめ合ひ

先下拵うゝ様くづー

厚くふ下ひぞ

孝に入ん人の孝ふん

ちのそむ月と氣

咽より上の方でゆゑい

むつま

肉よりかぶふんがさし

わりしきぞ

味しうね。氣があつらね

あはなま

一の道ととたなり拵

要害堅固

報ハ廿二打報をう

二階ハ石燈

家城まるといふ

一人おひしめ

烟と<sup>あ</sup>煙<sup>こ</sup>ふ<sup>ね</sup>なる女<sup>こ</sup>房

ちとてア<sup>ま</sup>事<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>る

○毎<sup>ま</sup>烟<sup>あ</sup>拵<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>

ア<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>

襦<sup>す</sup>袢<sup>わ</sup>拵<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>

あ<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>

け<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>笑<sup>わ</sup>ふ<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>わ<sup>ら</sup>じ<sup>ま</sup>る

こ<sup>ら</sup>の<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>

茶<sup>ち</sup>入<sup>い</sup>拵<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>

伸<sup>の</sup>び<sup>ま</sup>る

お<sup>お</sup>入<sup>い</sup>ニ<sup>に</sup>ツ<sup>つ</sup>拵<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>

三<sup>さん</sup>角<sup>かく</sup>と<sup>と</sup>入<sup>い</sup>る

ハ<sup>は</sup>子<sup>こ</sup>より<sup>より</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>拵<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>

宿<sup>しゆく</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>と<sup>と</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>拵<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>

ふんし白

佛の雪とまをれま

絵が染るも

牙銀松の葉へ通る

志がうへ

花のおが流きあ

白がり

又丁月

梅林店写居乙後選

○好物 仁白

雪の上人

鶴六十二まぶ掛け

は

ふりり  
雪と引もがらん

下北

御座つゝ

その御座つゝ重や報れ者

とるくは又後

花のさけさけし

チ、セ、

その御座つゝ

明晴月

わが御座つゝ

まこと

御座つゝ

よう

耕寸

日

らの肉が

その御座つゝ

一掃

系氣よ

二安<sup>ふ</sup>の娘<sup>むすめ</sup>が李<sup>り</sup>氏<sup>し</sup>の

ねが<sup>ねが</sup>推<sup>おし</sup>お<sup>お</sup>藏<sup>くら</sup>

弘<sup>くわ</sup>誓<sup>せい</sup>れ<sup>れ</sup>船<sup>ふね</sup>へ<sup>へ</sup>破<sup>やぶ</sup>入<sup>い</sup>き

やけの<sup>やけ</sup>動<sup>どう</sup>ハ

丹<sup>たん</sup>波<sup>は</sup>と<sup>と</sup>作<sup>さく</sup>の<sup>の</sup>魂<sup>たま</sup>の<sup>の</sup>あ

ヲ<sup>ヲ</sup>、<sup>、</sup>セ<sup>セ</sup>ハ

勝<sup>かつ</sup>お<sup>お</sup>又<sup>また</sup>娘<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>成<sup>なり</sup>退<sup>ひ</sup>き

郎<sup>らう</sup>の<sup>の</sup>伊<sup>い</sup>合<sup>あ</sup>

指<sup>ゆび</sup>の<sup>の</sup>えん<sup>えん</sup>と<sup>と</sup>小<sup>こ</sup>づ<sup>づ</sup>の<sup>の</sup>い

去<sup>こ</sup>船<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>如<sup>ごと</sup>月<sup>げつ</sup>

六<sup>む</sup>十<sup>じゅう</sup>の<sup>の</sup>女<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>振<sup>ふ</sup>つ<sup>つ</sup>け

及<sup>およ</sup>び

五<sup>ご</sup>十<sup>じゅう</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>形<sup>かたち</sup>鹿<sup>か</sup>と<sup>と</sup>鹿<sup>か</sup>と<sup>と</sup>鹿<sup>か</sup>

首<sup>くび</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>は<sup>は</sup>ん<sup>ん</sup>ろ

悪<sup>あく</sup>多<sup>た</sup>宗<sup>そう</sup>又<sup>また</sup>多<sup>た</sup>人<sup>ひと</sup>ト<sup>ト</sup>リ



笑ひあし

あのお鬼おにのふし

まらまらががいい

揚あがり中のなか的てきののふふへへまま

ぬぬわわがが

中なか上うへままのの一ひと把て買か

海うみままららああ

ああののゆゆめめののゆゆめめののゆゆめめ

ののちちりりつつちち

乳うしののおお方かたとと降ふるる

ちちりりううちちのの湯ゆ

持もつつ灯あかりののああららのの明あかり

草くさままららんんのの根ね

ああののままののああららののああららののああらら

は

せせららががれれののああららののああらら

中から帰

梅嶺のふれきり

歯はうら

そこの花はく実も

まがら

梅まは外

卒きり

そは乙女へり

飛

九十代のもん

古川町丁目

羅生軒玉置芳丸選

○好物 女の嬉

化白 生るもよ

級更あどよ

魚のぶく

はくろく 魚のぶく

魚より

魚のぶく 魚のぶく

魚のぶく

魚のぶく 魚のぶく

魚のぶく

魚のぶく 魚のぶく

魚のぶく

魚のぶく 魚のぶく

魚のぶく

魚のぶく 魚のぶく

魚のぶく

魚のぶく 魚のぶく

魚のぶく

魚のぶく 魚のぶく

美ねづくて

きんぎょく糸掛とぬり

のんごり

憎むけが顔と一むり

ねり

きんぎょく服や鼻と拵

まん

サア首おぐま

キ、志んき

なぶつがしつとやま

雲と雲

船頭。白の子が

ホイは

糸の結ぶ灯とぬり

こころ

云付くまの顔は掃

おひら

おひら  
おひら  
おひら

ちつあ

ちつあ  
ちつあ  
ちつあ

あつあ

あつあ  
あつあ  
あつあ

あつあ

あつあ  
あつあ  
あつあ

あつあ

あつあ  
あつあ  
あつあ

あつあ

あつあ  
あつあ  
あつあ

あつあ

あつあ  
あつあ  
あつあ

あつあ

あつあ  
あつあ  
あつあ

あつあ

おん  
おん

小蛇の住供<sup>ごけ</sup>を<sup>ごん</sup>戯<sup>ごん</sup>ま<sup>ごん</sup>る

松や町ニツ井戸

一さう<sup>ごん</sup>下<sup>ごん</sup>南<sup>ごん</sup>東<sup>ごん</sup>が<sup>ごん</sup>る

連林舎小林如竹遷

○好<sup>ごん</sup>物<sup>ごん</sup> 子<sup>ごん</sup>供<sup>ごん</sup> 女<sup>ごん</sup>房<sup>ごん</sup>

ま<sup>ごん</sup>く<sup>ごん</sup>と<sup>ごん</sup>怪<sup>ごん</sup>ら<sup>ごん</sup>る<sup>ごん</sup>る<sup>ごん</sup>ど<sup>ごん</sup>は<sup>ごん</sup>

歌<sup>ごん</sup>入<sup>ごん</sup>る<sup>ごん</sup>も<sup>ごん</sup>付<sup>ごん</sup>べ<sup>ごん</sup>ー

おん<sup>ごん</sup>上<sup>ごん</sup>下<sup>ごん</sup>

お<sup>ごん</sup>う<sup>ごん</sup>ら<sup>ごん</sup>ら<sup>ごん</sup>と<sup>ごん</sup>友<sup>ごん</sup>を<sup>ごん</sup>う<sup>ごん</sup>る

暑<sup>ごん</sup>が<sup>ごん</sup>晴<sup>ごん</sup>ま<sup>ごん</sup>

埃<sup>ごん</sup>の<sup>ごん</sup>け<sup>ごん</sup>が<sup>ごん</sup>服<sup>ごん</sup>を<sup>ごん</sup>一<sup>ごん</sup>余<sup>ごん</sup>り

一<sup>ごん</sup>い<sup>ごん</sup>も<sup>ごん</sup>惚<sup>ごん</sup>夫<sup>ごん</sup>い

お<sup>ごん</sup>ん<sup>ごん</sup>の<sup>ごん</sup>日<sup>ごん</sup>に<sup>ごん</sup>お<sup>ごん</sup>の<sup>ごん</sup>用

お<sup>ごん</sup>ん<sup>ごん</sup>の<sup>ごん</sup>お<sup>ごん</sup>れ<sup>ごん</sup>ま

笑<sup>ごん</sup>ひ<sup>ごん</sup>と<sup>ごん</sup>夜<sup>ごん</sup>へ<sup>ごん</sup>遊<sup>ごん</sup>て<sup>ごん</sup>お<sup>ごん</sup>る

鹿かのこままささ

鞆たづな中なか門かど口くちででささまましし

組くみよよ〜

鳴な〜ま海うみ水みづ中なかのの魚うい

河かははささしし

大おほ〜お笑わらををももるる女おんな座ざ

忍しの悦ぶ

○まま〜ま中なかととおおりり

羊ひつじけけああのの

二ふた日ひははんんどど左ひだり雨あめのの〜

雲あわ日ひにに〜

折ひら角かど横よことと風かぜ名な入いりり

ききのの〜

○家いへ〜い上かみととええ〜えぐぐべべぬぬ

〜

脊せ中なか〜ならら〜ら〜〜人ひと

あそびねり

角<sup>くま</sup>も<sup>も</sup>す<sup>す</sup>ろ<sup>ろ</sup>ん<sup>ん</sup>ど<sup>ど</sup>女<sup>に</sup>房<sup>ぶ</sup>

歯<sup>は</sup>工<sup>こ</sup>消<sup>しょう</sup>さ<sup>さ</sup>せ<sup>せ</sup>び

箸<sup>し</sup>紙<sup>じ</sup>も<sup>も</sup>中<sup>ちゆう</sup>内<sup>ない</sup>一<sup>いつ</sup>まり

志<sup>し</sup>心<sup>しん</sup>し<sup>し</sup>夢<sup>む</sup>で

孫<sup>そ</sup>づ<sup>づ</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>脊<sup>せ</sup>と<sup>と</sup>口<sup>くち</sup>糸<sup>いと</sup>紐<sup>ひも</sup>

上<sup>う</sup>ふ<sup>ふ</sup>き<sup>き</sup>糸<sup>いと</sup>一<sup>いつ</sup>ひ

り<sup>り</sup>終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>灯<sup>とう</sup>で<sup>で</sup>味<sup>あじ</sup>の<sup>の</sup>

時<sup>とき</sup>は<sup>は</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>き

一<sup>いつ</sup>つ<sup>つ</sup>神<sup>かみ</sup>持<sup>もち</sup>糸<sup>いと</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>ま

左<sup>ひだり</sup>ね<sup>ね</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>右<sup>みぎ</sup>ね<sup>ね</sup>る<sup>る</sup>

古<sup>ふる</sup>本<sup>ほん</sup>れ<sup>れ</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>つ<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>庭<sup>にわ</sup>を<sup>を</sup>り

吉<sup>きち</sup>日<sup>にち</sup>が<sup>が</sup>す

笑<sup>わら</sup>い<sup>い</sup>に<sup>に</sup>内<sup>うち</sup>中<sup>ちゆう</sup>へ<sup>へ</sup>さ<sup>さ</sup>が<sup>が</sup>き

ぬ<sup>ぬ</sup>ア<sup>ア</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>リ<sup>リ</sup>

子<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>い



あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

あまのうみのまへ

基で

まぶらまぶら

ふらふら

まぶらまぶら

折まつて 歯をで 知ちる味あじ

連つて 大おお

まぶらまぶら

あつて 入いる

池いと 川かとの あつて 池い

あつて 池い

あつて 人の 眼めの 付つ

あつて 人ひとの 笑わらひ

あつて 役やくり 立たつ

あつて 一ひとつ

あつて 一ひとつ 一ひとつ

あつて 一ひとつ

あつて 一ひとつ

継上る

家<sup>○</sup>を<sup>○</sup>く<sup>○</sup>り<sup>○</sup>て<sup>○</sup>嘆<sup>○</sup>し<sup>○</sup>ぬ<sup>○</sup>る<sup>○</sup>

昔<sup>○</sup>懐<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て

及<sup>○</sup>南<sup>○</sup>の<sup>○</sup>身<sup>○</sup>代<sup>○</sup>屋<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>か<sup>○</sup>け

わ<sup>○</sup>く<sup>○</sup>く<sup>○</sup>願<sup>○</sup>ひ<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>す

仕<sup>○</sup>お<sup>○</sup>し<sup>○</sup>て<sup>○</sup>ま<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>る<sup>○</sup>も<sup>○</sup>よ

幸<sup>○</sup>し<sup>○</sup>と<sup>○</sup>聖<sup>○</sup>日

笑<sup>○</sup>み<sup>○</sup>の<sup>○</sup>見<sup>○</sup>だ<sup>○</sup>ら<sup>○</sup>し<sup>○</sup>

か<sup>○</sup>り<sup>○</sup>及<sup>○</sup>だ<sup>○</sup>ん

侍<sup>○</sup>わ<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>侍<sup>○</sup>し<sup>○</sup>

色<sup>○</sup>艶<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>

下<sup>○</sup>駈<sup>○</sup>の<sup>○</sup>白<sup>○</sup>く<sup>○</sup>威<sup>○</sup>る<sup>○</sup>女<sup>○</sup>房

風<sup>○</sup>の<sup>○</sup>帝<sup>○</sup>

襟<sup>○</sup>し<sup>○</sup>ゆ<sup>○</sup>の<sup>○</sup>と<sup>○</sup>耳<sup>○</sup>汗<sup>○</sup>

あ<sup>○</sup>り<sup>○</sup>が<sup>○</sup>つ<sup>○</sup>め<sup>○</sup>り

思<sup>○</sup>ふ<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>り<sup>○</sup>の<sup>○</sup>さ<sup>○</sup>る<sup>○</sup>女<sup>○</sup>房

一〇〇十と

短ふりしきと裾が切き

笑ひてけ

足えゆふまね女房

吐の中ら

三毎の言斗川はえ

脚あはせ

さししほく

中

さるまゝ仕

まうと物トヤ

骨の欠きと丸い

振

さるまゝ足どりが

其坂の用意

松子本座の中へ入

飯より好

芥の柄敷帳の中を括

けりおくれ

一柄入きあがらうい

天保十丁日

大いどのかいあ入るる

四徳菴園奉梅州選

○好物

女房

貞実

良見

酒

鯛

茶

茶屋の湯

茗

百姓

角カ

善子

妻

仲居

又佐

人お

あのおりーつ

あーいさねがよ

とじて其意は白

しらまどくうのうき

雲月

糸色竹も野入

写しく野もどくね

中半くましく

仕立るる白ひざり

多

けちりのナア

眼がけり子托ふ女房

志いひが味じや

えり核ご本でいあひ

ふ死の縁さ

美い命よ法。ほのほ

ピン丸め

んご。堪納はて仕舞

何のぞい

あま 余りの強入

あま 余り

あま 余り 赤心眼とあま

あま 余り

あま 余り 内みくらり

あま 余り 強服もあま

あま 余り 舟が面あま

あま 余り

あま 余り 半れあま 指しあま

あま 余り 海なつあま

あま 余り 舟れ育つあま

あま 余り 舌挿しあま

あま 余り 厚焼子あま

あま 余り

あま 余り 去瓶のゆるあま

あよがぬり

やうなる糖もへる女房

あも引うこ

あめがよりうえさじ

あしあや

あつ杖つと知る

あつてあつふ

果てはあつてあつて

あつあつ

あつてあつてあつて

あつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつて

あつてあつてあつて



三徳備り

笑々々みも別がれ

ま〜ぞし

言々々の松おあぢ

備新し

振々々きげんあし

ヤレ〜極系

備々々も柳の竿へり

ま〜あし

あぢの娘い淵と喰い

弦

冠附〜

〜

〜

〜

〜

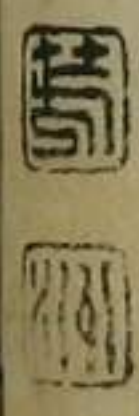
〜

〜

〜

〜

ふーしーもーちーの  
ふーしーんーんーんーんーん  
らーしーんーんーんーんーん  
ふーしーんーんーんーんーん  
ふーしーんーんーんーんーん  
ふーしーんーんーんーんーん  
ふーしーんーんーんーんーん



古今  
冠附  
冠附注解集  
此は冠附新古のつとを  
たて初学の便に  
しるしむるの法を  
一覽に  
全冊近刻  
東洋書院蔵

石方  
必用  
冠附みどり  
全壹冊

冠附  
同  
春日州  
を

大坂  
天保四癸巳十月吉辰癸辰  
播磨門藏  
秋田倉市五郎

78

